

2023年度業務実績報告書

提出日令和6年1月10日

1. 職名・氏名 助教 坂部敬子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学大学院看護福祉学研究科修士課程、授与年 平成26年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護学実習 I (2単位) : 4年生

②内容・ねらい

地域の特性と健康問題・課題について地域診断を通して理解する。
保健所実習において保健所の役割と機能、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけは5類感染症に変更となったが、引き続き感染予防対策について事前に保健所と十分話し合い実習計画を立てた。

臨地実習前の学内実習においては、保健所管内の健康課題に基づいた公衆衛生看護活動を理解した上で実習に臨むことができるよう努めた。その際、疑問やさらに理解を深めたいと思う内容を整理させ、実習で自主的に学ぶことが出来るように整えた。

保健所実習においては、実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。また、直前の学内実習の段階で学生の理解が不十分な内容については、実習開始後に実習計画に追加していただくよう指導者に依頼した。学生指導においては、見学・体験と講義での学びとがつながるように努めた。さらに学生が主体的に学ぶことが出来るよう、実習指導者とコミュニケーションをとりよい関係性を構築することを勧めた。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護学実習 II (3単位) : 4年生

②内容・ねらい

市町を単位として受け持ち、個人・家族・特定集団・地域全体を視野に置いた公衆衛生看護活動を展開するために必要な能力を養う。地域の健康課題に対する公衆衛生看護活動の展開方法と公衆衛生看護の役割と専門性について学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

公衆衛生看護学実習 I 同様、学生自身と実習市町の住民の感染予防対策について、市町と十分話し合った。

市町実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。連絡調整や企画立案といった見学・体験できない保健師の仕事については、可能な限り体験させてもらえるようにした。例えば、運動推進員などの地域住民が運営する健康教室については、運動推進員対象の研修会と健康教室とに参加させてもらい、住民との協働とその難しさについても学ぶことが出来るようにした。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護技術 I (地域診断) (1単位) : 3年生

②内容・ねらい

公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断について演習を通して知識・技術を習得し、理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

授業では、既存の衛生統計資料や保健医療に関する資料等を図表化・分析する知識・技術について助言し、4年次の公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地域診断につながる学習となるよう努める。また、グループワークを取り入れ、学生が興味や関心を持って実習する市町を理解することが出来るようにする。図表作成や分析に時間がかかる学生などには、丁寧に個別指導を行う。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）（1単位）：3年生 ※科目の主担当

②内容・ねらい

乳児家庭訪問における個人・家族支援の過程と実際、支援に必要な知識・技術と方法を理解する。

幼児健康診査の問診・指導場面における発育・発達のアセスメント、保健指導に必要な知識・技術と方法を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

乳児家庭訪問の事例を通して家庭訪問の流れと家庭訪問に必要な知識・技術について学習し、実習で見学する家庭訪問場面で学びを深めることができるようとする。今年度の実習では、ほぼ全員の学生が同行訪問を体験できたため、演習では同行訪問の際に十分な学びができるよう準備状態を整える。

乳児家庭訪問および幼児健診の事例は、国家試験の問題傾向も見ながら見直していく。

演習の問題点（学生の提出課題に対する解説が不十分）については、一昨年度、実習初日に解説することで改善できたが、昨年度は対面授業に戻ったため、さらに学生が演習した回答を発表して共有し教員が補足説明を行うようにした。その結果、学生は積極的に発表し視野を広げることが出来たと考える。しかし、演習に時間がかかる学生を待ちながら進めていったため、終盤は駆け足の授業となってしまった。今年度も授業時間を工夫し個人の演習時間を確保する。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

公衆衛生看護技術Ⅲ（集団・組織）（1単位）：3年生 ※科目の主担当

②内容・ねらい

集団を対象とした健康教育を企画するために必要な技術を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度の実習ではすべての市町で住民対象に健康教育を実施することが出来たため、演習開始までに実習施設と調整して実習で実際に行う健康教育の対象・事業・場を決定する。演習では、実習と連動させて健康教育の対象・事業・場の理解、健康課題の把握、健康教育の目的・目標の設定、媒体の検討までを行う。

演習では、まず各自が健康教育の対象・場の理解、健康課題の把握をする。次に、グループワークを実施し、グループで一つの健康課題を決定する。その後は、各自が健康教育の目的・目標の設定、教材の絵コンテ作成を行う。保健師実習のグループは、専門領域実習とは異なるため、グループ間のコミュニケーションやグループワークの状況も異なる。グループ間のコミュニケーションが円滑に進むよう見守りながら、グループワークが充実するように助言していく。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（3単位）：4年生

②内容・ねらい

科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究発表までの一連の過程を指導した。

指導の際は、今後、学生が研究に取り組む際に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。特に、倫理的配慮・倫理審査に関して説明・指導を丁寧に行った。その際、昨年度の学生が研究発表会で他の教員から助言をいただいた内容も加えて指導した。また、今後、就職先で実際に研究を行う場合の進め方が具体的に理解できるような説明を加えた。

学生が意欲的かつ主体的に進められるよう、必要な時期に必要な助言を行った。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【 本】

②学術論文（査読あり）

【 本】

③その他論文（査読なし）

【 本】

④学会発表等（ポスター発表）

【3 件】

⑤その他の公表実績

【 冊】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

- ・ R5 科研費基盤研究 C（研究題目：行動科学を活用する睡眠マネジメントプログラムの開発、申請代表小島）における研究協力者

(3)特許等取得

(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

- R5 年度開放講義（模擬授業）：看護の対象を理解する－家庭訪問時の情報収集－、鯖江高校（10.20）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- 看護学科 3 年副担任 (R5.4～)
- 看護学科実習検討委員会委員 (R5.4～)

(3)学内行事への参加

【オープンキャンパス】

- 当日 (8.6) の実施 (R5 担当の領域)
- 担当領域の動画作成補助

【研修会】

- ハラスマント防止研修（オンデマンド受講）
- 情報セキュリティー研修会（オンデマンド受講）

【入試関連】

- 入試説明会 (12.21・22)

【健康生活科学研究科開設記念 公開講演会・シンポジウム】

- 記念式典、公開講演会・シンポジウム参加 (5.31)

【全学ミーティング】

- 実習のため欠席

(4)その他、自発的活動など